

題目： 攻撃は最大の防御？－先制攻撃と集団との関連に関する研究－

氏名： 長山瑛

指導教員： 山岸俊男

攻撃行動のひとつに先制攻撃がある。先制攻撃には、相手を攻撃すること自体を目的とする場合の他に、相手に攻撃されるかもしれないという恐怖のために、相手から攻撃される前に相手を攻撃してしまおうとする場合がある。先に攻撃することで相手からの攻撃を阻止できるので、相手の攻撃に恐怖を感じる場合、先制攻撃は自分の身を守る有効な手段となる。

本研究では、「先制攻撃をするためにはコストがかかる（自己利益が減少する）が、相手に先に攻撃されるとより大きなコストを負わされる」という状況を実験室内にゲーム状況として設定した。こうした状況、すなわち先制攻撃をすることに何ら利益が伴わない場合、つまりお互いに攻撃し合わないことが最も得になる状況においても、相手の攻撃を心配することによって自らが攻撃を行うかどうかを検討することが本研究の目的である。また、戦争や民族紛争では集団がかかわってくることが多い。そのため参加者を最小条件集団に分ける条件を設け、相手の所属集団によって攻撃率に差が生じるかについても検討した。

本研究で用いた先制攻撃ゲームは以下のとおりである。実験参加者は2人1組のペアとなり、両者ともはじめに1000円ずつ与えられた。参加者は相手を攻撃するかしないかの選択肢を与えられ、設定時間内に攻撃するかしないかを決定しなければならなかった。両者とも攻撃しなかった場合、2人とも1000円を手に入れられるが、どちらかが攻撃した場合は攻撃した参加者は900円を受け取り、攻撃された参加者は500円を受け取った。また、攻撃された後に攻撃し返すことはできなかった。

実験の結果、集団分類を行った条件でも行わなかった条件でも20%前後の人が相手を攻撃する結果となった。この結果から、人間は攻撃することが合理的ではない状況でも、相手に攻撃されるかもしれないという不安により攻撃してしまう可能性があるということが示された。また、所属集団の情報の有無によって攻撃率に差は生じず、内集団が相手の場合と外集団が相手の場合とでも攻撃率に差は生じなかった。ただし男女別に分析した場合には、男性では集団のありなしで攻撃率に差が見られなかったが、女性では攻撃率に差が生じ、女性は集団の情報が与えられると攻撃率が極端に減少するという結果になった。

(939字)